

# 2026（令和8）年度 入学者選抜試験問題

## 一般選抜Ⅱ期

### 現代の国語・言語文化（60分）

#### 注意事項

1. 監督者の指示があるまで問題を開かないでください。（開いた場合は不正行為とみなします。）
2. 問題冊子は17ページあります。ページの落丁、乱丁および解答用紙の汚れなどに気づいた場合は、無言で手を高く挙げて監督者に知らせてください。
3. 監督者の指示にしたがって、解答用紙に氏名、フリガナ、受験番号をそれぞれ正しく記入・マークしてください。受験番号は、受験番号欄の上部に10桁の番号を算用数字で記入し、下部に番号をマークしてください。正しく記入・マークされていない場合、採点の対象となりません。
4. 解答する2科目（1時限目：「英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ」、2時限目：「現代の国語・言語文化」）のうち、どちらか1科目を傾斜配点（得点を1.2倍にする）の対象とします。傾斜配点科目の選択方法は、解答用紙の〈記入上の注意〉を参照してください。
5. 解答は、次の（例）を参考にし、解答用紙の解答記入欄にマークしてください。なお、正しくマークされていない場合は、採点できません。

（例）解答番号1に対して、⑤と解答する場合

解答番号	解答記入
1	① ② ③ ④ ⑤

6. 訂正箇所は、消しゴムできれいに消してください。
7. 解答欄には、関係のない符号や文字あるいはメモなどを記入しないでください。
8. 試験終了後、解答用紙を訂正することは一切できません。
9. 解答用紙を折ったり汚したりしないでください。
10. 問題冊子の余白部分は、適宜利用してもかまいません。
11. 声を出して問題を読んではいけません。
12. 不正行為について
  - ①不正行為に対しては厳正に対処します。
  - ②不正行為に見えるような行為が見受けられた場合は、監督者が直接注意します。
  - ③不正行為を行った場合は、全ての科目が失格となります。
13. 気分が悪くなった場合は、無言で手を挙げて監督者に知らせてください。
14. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

# 現代の国語・言語文化

(解答番号は 1 ～ 39 )

一 次の文章を読んで、後の問い(問1～9)に答えよ。解答番号は 1 ～ 13。

まず個人があつて、それらの個々人がコミュニケーションを通して結びついて社会を構成しているという考え方、私たちの社会でよく耳にする考え方に従えば、コミュニケーションとは副次的な、二次的なもので、社会の中でもっとも基本的な単位は個人だということになります。まず個人があつて、その個人がコミュニケーションを通して結びつく、と考えるわけですから。それに対して、人と人、人と物、物と物などのコミュニケーションを通して個人が創られているという、私たちにとってはやや分かりにくい発想に従えば、逆に、個人が副次的なもので、コミュニケーションが社会にとつてもっとも基本的なものである、ということになります。

これらの2つの考え方は、個人、社会、コミュニケーションについての異なつた世界観の現れであり、実は、このような異なつた世界観がせめぎあうことによつて、社会というものは構成され、コミュニケーションというものは為なされていると考えられます。どちらの考えが正しいか、という判断をするよりも、まず、社会には、さまざまな考えがあるという事実を認めること、次に、どのような種類の人々がどのような考えを抱くのか、それぞれの考えはどのような(ア)実践的な帰結と結びつきがちなか、そして、それぞれの考えはどのような歴史的な背景の中で説得力、(イ)妥当性を持つものと見なされるようになっていのか、などといったことについて考える点に、<sup>A</sup>コミュニケーション論の学術的、科学的な性格が現れています。

a、先に、私たちの世界では、普通、個人が社会やコミュニケーションに先行して存在すると考えられる傾向が強い、ということを書きましたが、もちろん、私たちの社会の中でも、家族や友人との結びつき、あるいは土地との結びつきが自分を創ってきた、などといった趣旨の発言は、ある種の文脈(コンテキスト)では、まま耳にするものです。そのようなことが言われるのは、えてして、肉親の死や大規模な災害、移民・移住などによる故郷(ウ)喪失体験、あるいは結婚式のような、これまでの生活や生い立ちを振り返る儀礼的な場などであることが多いようです。そうした観察が(エ)示唆するように、私たちの社会でも、自分にとって身近なものの喪失(肉親の死や家族との決別)などが問題となるとき、社会やコミュニケーションは個々人の間の結びつきではなく、b (c) 諸個人を取り巻き、含みこみ、そして創り出しているものとして経験される、あるいは少なくとも言明される傾向が見られるようです。

そしてそのような社会観やコミュニケーション観が、それとは異なつた別の社会観やコミュニ

ケーション観、つまり **B** 社会観やコミュニケーション観、たとえば学校や会社、法律や政治、都会での行きずりの関係などの場で表出する傾向の強い個人主義的な社会観やコミュニケーション観と相補的に分布しているというパターンが私たちの社会には、ある程度観察されるようです。（「相補的に分布している」とは、あるコンテキストでは、こっちの考え、別のコンテキストではあっちの考え、といったふうに、コンテキストによって違った考え方が使い分けられているような状況を指します。）

当然、これら2つの世界観の棲み分けは完全に相補的なものではなく、**C** 両者はときに、せめぎあい衝突しあうことは、たとえば、自分の土地を奪われた人々と、他方、そのような土地喪失の体験に絡む法的・行政的な補償の過程との間でしばしば現れる、社会観、コミュニケーション観の齟齬による（オ）葛藤によっても示されているとおりです。つまり、ここでは、コミュニケーションを通じた人間や土地との社会的つながりが創り出すものとして個人（人間）を捉える発想（政治学で「共同体主義」などと呼ばれるもの）と、他方、個人の権利や所有、個人的利害などをベースにして、権利や利益を侵された諸個人に対して、これも諸個人から成る組織である会社や政府、**d** 諸個人が雇用関係や経済関係、法的関係や政治的關係に基づいて構成する法人や国家（社会）が補償や救済を行うという、個人を基本的な単位とする社会観（「人権思想」や「社会契約思想」と呼ばれるもの）、この両者の間の齟齬による葛藤が見られるわけです。

こうして3つのことが言えると思われます。まず第一に、**D** 社会には複数のコミュニケーション観 **世界観が存在している**ということ、第二に、それにもかかわらず、これらのコミュニケーション観、世界観は個々別々に、別の世界に位置するのではなく、同じ1つの世界の中で、ときには相補的に、ときには衝突しあって存在していること、第三に、1人の個人の中にも、そのような複数のコミュニケーション観、世界観が存在し、相補的に分布したり衝突したりしていること、以上の3つです。

なぜ1つの世界に、複数のコミュニケーション観が存在するのか、その理由は、おそらくコミュニケーションには複数の局面があることと関係があると思われます。つまりコミュニケーションというものは、単純な、一枚岩のものではなく、多様な側面を持つており、それらの側面のどれが前面に出るかによって多様なコミュニケーション観、社会観が生み出されるのだと（**e**）**推察**されます。（これは、たとえば、ある人物についていろんな人物評、評判があるならば、それは、その人の持つさまざまな局面、つまりその人が相手の人や場面によって示すさまざまな「顔」に由来する、と考えるみたいなことです。逆に、どれか1つの評判が正しく、他の評判が間違っていることを疑念の余地なく、誰もが納得するように立証するのが、どれだけ難しいことか、無理があることか、考えてみてください。）

そうであるならば、まず、コミュニケーションにはどのような側面が存在するのか、そしてそ

れが、どのように多様なコミュニケーション観と相関しているのかを探究していく必要があるということとなります。

(小山亘『コミュニケーション論のまなざし』より。本文中に一部省略したところがある。)

問1 傍線部(ア)～(オ)の漢字の読みとして最も適当なものを、次の各群の①～④のう

ちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は  ～ 。

(ア)	<input type="text" value="1"/>	①	じつげん	②	じつせき	③	じつけん	④	じつせん
(イ)	<input type="text" value="2"/>	①	だとう	②	さとう	③	てきとう	④	おうとう
(ウ)	<input type="text" value="3"/>	①	そんしつ	②	もしつ	③	そうしつ	④	ししつ
(エ)	<input type="text" value="4"/>	①	ししゆん	②	ししや	③	しさん	④	しさ
(オ)	<input type="text" value="5"/>	①	がつとう	②	かつとう	③	くんとう	④	せつとう

問2 空欄  ・  ・  に入る語句の組合せとして最も適当なものを、次の①～

④のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- ① a あるいは b かえって d いわば
- ② a 一方 b さらに d そして
- ③ a たとえば b むしろ d つまり
- ④ a なぜなら b いっそ d しかも

問3 傍線部(c)「諸個人」とあるが、これと同じ構成の熟語を、次の①～④のうちから一

つ選べ。解答番号は 。

- ① 和楽器
- ② 試金石
- ③ 非公開
- ④ 天地人

問4 傍線部(e)「推察」の「察」と同じ意味で「察」が用いられている熟語として最も適

当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- ① 視察
- ② 診察
- ③ 観察
- ④ 察知

問5

傍線部A「コミュニケーション論」とあるが、筆者はどのようなものだと考えているか。

その説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 9。

- ① 個人と社会やコミュニケーションに関する複数の考え方について、それらが生まれた背景や社会に受け入れられる過程も踏まえながら、客観的な見方で研究するもの。
- ② コミュニケーションについて、社会を構成する基本的単位としての個人がどのように考えるのかや、複数存在する個人の考え方の違いを学術的に定義するもの。
- ③ 社会を構成しているコミュニケーションが、社会に浸透していく過程で個人のさまざまな考えにどのようなように作用してきたかを、実践的な事例を通して考察するもの。
- ④ 現代社会において為されているさまざまなコミュニケーションについて、どの方法が最も説得力、妥当性を持つかを歴史的背景も考慮に入れて定量的に計測するもの。

問6

空欄 B に入る語句として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解

答番号は 10。

- ① 周囲と個人の関係性で社会を捉える
- ② 個人に先行するものとして社会を捉える
- ③ 個人のための存在として社会を捉える
- ④ 個々人の集まりとして社会を捉える

問7

傍線部C「両者はときに、せめぎあい衝突しあう」とあるが、どういふことか。その説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は

11。

① 社会の中で表出する「個人主義」的な社会観と、「共同体主義」的な個人の捉え方が、コミュニケーションを通じた土地との社会的つながりに影響し、故郷を喪失するような体験を持つ人とそうでない人との間に埋めようのない分断をもたらすので、国家の個人に対する補償や救済に対する重要性が異なってくるということ。

② 実生活の中で発現する、諸個人の権利の侵害や個人的利害などの問題の背景として、個人が基本的単位として社会やコミュニケーションに先行して存在するという考え方で、コミュニケーションが社会にとって基本的なもので個人は副次的なものとする考え方が、併存しつつも厳しく対立しているという事情があるということ。

③ 私たちが生きている社会はコミュニケーションを媒介として人と人とのつながりで構成されているにもかかわらず、異なった社会観・コミュニケーション観を持つ人間が相補的に存在しており、法的・行政的な補償などの重要な場面では、双方の違いによって対立し、円滑なコミュニケーションが阻害されるということ。

④ 個人を中心とするコミュニケーションと、社会を中心とするコミュニケーションという二つの考え方が創り上げる世界は、基本的には対立するものであって社会の争いの原因となるが、時と場合によってはその境界は曖昧となってまじりあい、コミュニケーション自体が不全なものになる危険性があるということ。

問8 傍線部D「社会には複数のコミュニケーション観、世界観が存在している」とあるが、筆者はそれはなぜだと考えているか。その理由として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 12。

- ① 社会を円滑に動かすためには、人間は、その場の状況や対面する相手によって、さまざまなコミュニケーションの方法を使い分ける必要があるから。
- ② コミュニケーション自体は一面的なものではなく、それぞれの状況に応じてコミュニケーションの持つ多様な側面のうちのいずれかが現れるから。
- ③ 相補的に分布する世界観、コミュニケーション観が他のものと衝突する際に、世界観の基本とするものの概念が揺らぎ、別のものに変質するから。
- ④ どのコミュニケーション観、世界観が正しいかというのは相対的なもので立証が困難であり、その場の状況に応じた正解は複数存在するから。

問9 この文章の内容・展開についての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 13。

- ① はじめにコミュニケーションについてよく耳にする考え方を紹介し、それに対する反論の形で社会に内在するコミュニケーションの問題について、人間と土地との社会的つながりをもたらすものを例にして新たな見方を提示している。
- ② はじめにコミュニケーションの2つの考え方を提示し、コミュニケーション論学者の立場に立ちながら歴史的背景を踏まえて考察し、個人主義的な社会・コミュニケーション観を中心とした従来の論に疑問を呈している。
- ③ はじめに個人と社会やコミュニケーションについて2つの異なる考え方を説明したうえで、それら2つの世界観の関係性について複数の具体例を交えて読者の理解を促しながら、複数の観点に整理して筆者の主張を述べている。
- ④ はじめにコミュニケーションの社会の中での基本的なパターンについて説明して読者との共通理解を築いたうえで、個人、社会の異なった世界観について、それがもたらしているコミュニケーションの齟齬の解消法を模索している。

二

次の文章を読んで、後の問い(問1～9)に答えよ。解答番号は

14

～

26

。

二〇〇三年十一月、静岡で初めての「連詩」を経験した。五人の参加者が、五行と三行を交互に書いてつなげていく。連句や連歌ほど規則にしばられないとはいえ、行う前には、<sup>A</sup>理由のない不安と抵抗感があつた。しかしやってみれば驚くほど楽しくて、わたしはすっかり(ア)ムチュウになつてしまった。【I】

「座」というものは、そのなかにいる者たちが楽しんでいれば楽しんでだけ、そこからはじかれていて外側の人間を、醒ましてしまうということがある。現代の詩人たちは、「連詩」に多くが無関心だったり、アレルギーを持っているように感じられる。わたしも行う前は、そのうちの一人だった。そしてそこには、人間同士が集まり、関係することによって生じるなものかへの、疑義や恐怖心、また、嫉妬心のようなものがからんでいるような気がする。【II】

また、ひとつの作品として、連詩の成果を見たとき、わたしには、それらが、どれももうひとつ、わかりにくいものであつた。ひとりの詩人によって書かれたひとつの作品、あるいは一冊の詩集を読むようには、連詩の作品を読むことができない。連詩によって創られた作品は、一人が創つたものよりも、もつとずつと混沌<sup>こんとん</sup>としており複雑である。ときには、ばらばらなかけらの集合のようにさえ見える。【III】

今回もそうだったが、連詩発表の際に、前の詩のどこを、どう受けて創つたのか、口頭で説明が行われることがある。【IV】そういうかたちで、読者を、詩が創られたまさにその時間そのものなかへ戻すようなことをするのも、この「輪」のなかの当事者と読者の(イ)ミゾを、解消しようとする試みなのかもしれない。

ひとりの人間によって一編の詩が書かれるといっても、そもそも言葉というものは一人だけのものではない。たとえば、わたしが、「水」という言葉を書き付ける。その瞬間に、「水」という言葉のうしろに、<sup>B</sup>歴史の棒がするするとのびる。そのなかで、このひとつの言葉に込められてきた、さまざまな記憶がぶつかりあい(ウ)ハンキョウする。わたしは<sup>C</sup>言葉を通す、からつぽの管のようなもの。言葉につまっているさまざまな記憶を、書き付けるたびに、ゆさぶりながら、そのほんのはじっこを紙のうえに落とすだけだ。

そしてどんな言葉も、その源をたどっていけば、いつもきつと死者にいきつくことになる。数からいえば、いま、生きているわたしたちよりも、常にいつも、死者のほうがずっと多い。言葉というものをささえているのは、死者たちであるといつてもいい。そういう意味でいえば、そもそも詩を書くというのは、<sup>D</sup>であるともいえる。

それに何かが生まれる源には、すべて「関係」が生じている。それだけが単発に出現するといふことはない。詩が生まれる瞬間には、わたしと対象物の、わたしと言葉の、言葉と言葉の関係

が生じる。しかし、詩を書くうえでそうした「関係」は、すべて、観念上の関係である。連詩の現場では、それを実際に目に見えるかたちで、生身の人間同士、しかも公開しながら行うのであるから、前述のような不安と抵抗感が生まれても不思議はない。

しかし当事者になってみれば、こうした、あらかじめの不安などは、どこかへ飛んでしまい、とにかく、この場へざぶんと飛び込もうという、コウ(エ)キ心のほうが勝っていた。あとは現場でゆっくり考えればいい、そんな気持ちで、わたしは三日間の創作にかかった。

参加したのは、例年の(a) 船取り役、大岡信さんを中心として、日本側が、詩人の四元康祐さん、そしてわたし。オランダから、ヘンク・ベルンレフさんとウィレム・ファン・トールンさんの、二人の詩人がやってきた。彼らはオランダで、すでに大岡さんと連詩を体験しているひとたちだ。

眺めのいいホテルの二十五階が、連詩の創作現場だった。前夜、大岡さんから、最初の詩を創るように指名された四元さんは、次のような五行をもって始められた。

本当ですか、オランダ語には

「水平線」を意味する単語が四つもあるというのは

ランボーの見たスマトラの海、北齋ほくさいの見た駿河すまがの海

ヴィーナスの下腹のように

わたしたちの眼下で言葉の水平線が上下している

実際、オランダ語には、四つの水平線を意味する言葉があるらしい。そして部屋からも実際に、遠方に太平洋の海が見えた。こうして実際に見えている光景と、見えない言葉の観念の世界を、水平線という言葉がつなぎ、わたしのなかで航海のイメージが、連詩という共同作業に重なった。

創られたものは、ひとつひとつ、大岡さんによって、大きな巻紙に書き取られていく。この巻紙は、あとになって眺めると、たいへんに感動的な足跡である。すべてが終わったとき、会場に掲げられたその墨の文字のあとを、E わたしは、山脈を眺めるように眺めた。文字の意味を追うことなく、ひとつの形として。それはまた、交響曲の楽譜のようでもあった。ああ、ここに、時間が確かに流れたのだ、とわたしは思った。

やっているときには、前のひとと後のひととの関係に目をこらすだけで、ついで、全体に思いをはせる(オ) ヨユウがなかった。終わってみると、ふいに全体が、ふいに五人の存在が、ひとつのかたまりとなって現れる。それは驚くような感触である。

大岡さんは、連詩に関連して、細部のかけらを集めると大きなひとつの b が現れるということをやっていた。巻紙に写し取られたすべての文字の連なりを眺めているとき、確かにわたし

にやってきたのは、このどかんとした、大きなひとつの塊の感触。それを **b** と言っているのかわからないが、まるで、ひとつの、「ひとの生涯」、あるいは、「ことばの生涯」を、見渡しているような感慨があった。わたしは細部を書いた。そして、その細部を書いているときに流れている時間があつた。そうした時間の細部までが、ありありとした輝きでひとつひとつ よみがえ 蘇り、この終わりという一点に向かって、逆流しながら流れ込んできたのだった。

(小池昌代『黒雲の下で卵をあたためる』より。)

問1 傍線部(ア)～(オ)に相当する漢字を含むものを、次の各群の①～④のうちから、それ

ぞれ一つずつ選べ。解答番号は  ～  。

(ア) ムチユウ

- ① 少子化対策がキユウムである
- ② アクムにうなされて目が覚めた
- ③ 沖合いの船舶がムテキを鳴らす
- ④ 逆転の見込みはカイムに等しい

(イ) ミヅ

- ① 大学のコウナイに立ち入る
- ② 大雨でコウズイの危険性が増す
- ③ 急なコウバイの坂道を上る
- ④ 道路のソツコウの掃除をする

(ウ) ハンキョウ

- ① 周囲のハンカンを買う発言
- ② 後輩のモハンとなるような態度
- ③ ヤハン過ぎから雨が降る予報だ
- ④ 遠目には顔がハンゼンとしない

(エ) コウキ

- ① 博物館の維持に多額のキフをする
- ② 旅情あふれるキコウ文が掲載される
- ③ キスウは二で割り切れない
- ④ ヤッキになって否定する

(オ) ヨユウ

- ① 金メダルがジュヨされる
- ② 受賞のエイヨに浴する
- ③ ヨビの充電器を用意する
- ④ ヨカはキャンプをして過ぐす

問2 傍線部(a)「舵取り役」の本文中における意味として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 19。

- ① 先頭に立って宣伝や応援を行う人
- ② 高い知識や教養を兼ね備えた人
- ③ 物事がうまく運ぶように導く人
- ④ 未熟な者に対して技術を教え導く人

問3 二か所の空欄 b に共通して入る語句として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 20。

- ① リアリテイ
- ② イマジネーション
- ③ レトリック
- ④ メタファー

問4 次の一文は本文からぬき出したものである。これを戻す位置として最も適当なものを、後の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 21。

読者が、これを紙の上で読んだときに、はたしてどれほど楽しめるのであろうかという、素朴な疑問があった。

- ① 【I】
- ② 【II】
- ③ 【III】
- ④ 【IV】

問5

傍線部A「理由のない不安と抵抗感があつた」とあるが、その説明として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 22。

- ① ひとつの作品として連詩の成果を見ても、口頭で説明をしてもらわなければ連詩の意味が理解できず、一冊の詩集を読んだときのような感動が得られないと思つている。
- ② 人間同士が集まつている場に参加することへの恐怖心や嫉妬心があり、混沌として複雑であるという、連詩の性質に由来する作品のわかりにくさがあると思つている。
- ③ 連詩は連句や連歌ほど規則にしばられないので、かえってどのようなものを創ればよいかわからず、連詩制作の場で疎外感を味わうのではないかと思つている。
- ④ 言葉は一人だけのものではなく背景には無数の記憶を持つので、他の人が書いた言葉を引き継いでいく連詩は、ばらばらなかけらの集合でしかないと思つている。

問6

傍線部B「歴史の棒がするすとのびる」、傍線部C「言葉を通す、からっぽの管のようなもの」とあるが、筆者がこれらの表現技法を用いた意図とその内容の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 23。

- ① 「歴史の棒がするすとのびる」は、自分がある言葉を書き付ける行為によって、現在から未来へと橋渡しができることを示し、「言葉を通す、からっぽの管」は、言葉につまつている記憶を自分がそこにこれから詰め込んでいけることを述べている。
- ② 「棒がするすとのびる」は、言葉を書き付けた瞬間からその言葉が自ずから意味を持つて動き出すことをたとえており、「からっぽの管」は、自分が、詩が創られたまさにその時間へと記憶を戻すパイプ役となつていることを述べている。
- ③ 「歴史の棒」は、言葉を書き付けることでその人の過去から続くさまざまな記憶が他の言葉と重なり響き合うことを示し、「からっぽの管」は、言葉というものは「わたし」一人だけのものではないという「わたし」の孤独感をたとえている。
- ④ 「歴史の棒」は、ある言葉を用いたその背後には、その言葉に込められた記憶が多く存在していることを示し、「言葉を通す、からっぽの管」は、自分は先人たちが用いた言葉の記憶を書き付けるだけの存在にすぎないということを述べている。

問7 空欄 D に入る語句として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解

答番号は 24。

- ① 膨大な死者たちへの追悼
- ② 生者と死者の共同作業
- ③ 死者の記憶の追体験
- ④ 生者のみに許された権利

問8 傍線部E「わたしは、山脈を眺めるように眺めた」とあるが、どういうことか。その説

明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 25。

- ① 五人の詩人が確かに詩を創ったという事実を大きな巻紙に書き取られた膨大な文字のまとまりから感じ、文字の連なりと連詩として流れた時間が一体感を持つかたまりとなつて目の前に現れたことに改めて強い感動を覚えているということ。
- ② 連詩に参加しているときには、前のひとと後のひとの詩の関係に神経を集中させることに精一杯だったが、すべてが完成してから眺めると初めから終わりまで通底して流れる言葉が大きな意味を持つことに思い至り、呆気にとられていたということ。
- ③ 大岡さんによって大きな巻紙に書き取られた墨の文字は美しいが、交響曲の楽譜の中の音符のように、文字の意味はすでにはるかに些少なさしやうものとなり、全体が大きなひとつの芸術作品として堂々と存在していることに圧倒されているということ。
- ④ 連詩に参加しているときには自分が詩を創ることに精一杯だったが、文字になったものを改めて読んでみると、五人の詩人の存在が見事に融合した素晴らしい作品であることに気づき、連詩が持つ唯一無二の力を初めて実感しているということ。

問9

連詩についての筆者の考えの説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 26。

- ① 詩は目の前の光景と見えない言葉の観念の世界をつなぐものであり、そうした言葉ひとつひとつを細かなかけらのように寄せ集めていく連詩は、ひとりの詩人が創るより生身の人間同士の生々しい感情がより露<sup>あら</sup>わになるものである。
- ② かつて筆者は連詩をわかりにくいものと感じていたが、実際にやってみることによって、それぞれの詩人が、言葉に込められた記憶をゆさぶりながら書き付けるその行為の連続こそが連詩の本質であると考えている。
- ③ 詩を書くということは、自分と対象物と言葉との関係の上に成り立つものであり、そうした観念上の関係を公開しながら完成させる連詩は、その言葉が内包する記憶とともに、全体と細部を同時に感じさせるものである。
- ④ 筆者は、自分は全体の中の細部を担当したにすぎないが、「時間」という新たな概念を持つことにより、連詩が完成するまでに流れる時間の細部がより輝かしいものになり、時間を遡ることと言葉の輝きが増す増すと感じている。

三 次の問い（問1～11）に答えよ。解答番号は 27 ～ 39。

問1 次のア～ウの説明にあてはまる語句として最も適当なものを、後の①～④のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は 27 ～ 29。

ア 道理に合わないこじつけの論。 27

- ① 饒舌じょうぜつ    ② 諧謔かいぎやく    ③ 軋轢あつれき    ④ 詭弁きべん

イ 鍛え育成すること。 28

- ① 陶冶    ② 啓発    ③ 矯正    ④ 呻吟しんぎん

ウ 詳しく知ること。 29

- ① 仄聞そくぶん    ② 洞察    ③ 知悉ちしつ    ④ 俯瞰ふかん

問2 「警句。格言。」という意味を表す語句として最も適当なものを、①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 30。

- ① アフォリズム    ② ロジック  
③ アンチテーゼ    ④ エピゴーネン

問3 次の各文のうち、敬語の使い方が正しいものを、①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 31。

- ① 「待ち時間については受付でお聞きしてください。」  
② 「待ち時間については受付でお聞きになってください。」  
③ 「待ち時間については受付で伺ってください。」  
④ 「待ち時間については受付でお伺いしてください。」

問4 次の各文のうち、敬語の使い方が誤っているものを、①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- ① 「私の考えをお伝えさせていただきます。」
- ② 「そろそろお客様がお見えになる時間です。」
- ③ 「以上の点につきましてご教示いただけますと幸いです。」
- ④ 「事前にこちらの資料をご拝読ください。」

問5 次の慣用句の傍線部の「から」と同じ意味・用法のものを、後の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 。  
病は気から

- ① すぐに行くから待っていてください。
- ② その件については私からご説明します。
- ③ 必要から発明が生まれる。
- ④ 春から大学生だ。

問6 次の文の傍線部の「さえ」と同じ意味・用法のものを、後の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 。

英語さえ読めないのにラテン語なんてわかるわけがない。

- ① 寒くなったらうえに雪さえ降りでした。
- ② 子どもでさえ考えればわかることだ。
- ③ 寝られさえすればどのような部屋でもよい。
- ④ 彼は暇さえあれば、すぐに釣りに行く。

問7 次の各文の傍線部の「らしい」のうち、他と意味・用法が異なるものを、①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- ① 今日も冬らしい寒さが続いている。
- ② あしたは午後から雨らしい。
- ③ そこで笑えるのが彼らしいところだ。
- ④ コロコロとした子犬らしい仕草。

- 問8 次の慣用句・ことわざのうち、誤っているものを、①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 36。
- ① 采配を振る
  - ② 目鼻が利く
  - ③ 足をすくわれる
  - ④ 檄げきを飛ばす

- 問9 次の四字熟語のうち、「ゆったりとおちついて物事に動じないさま」という意味を表す語句として最も適当なものを、①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 37。

- ① 沈黙考
- ② 夏炉冬扇
- ③ 泰然自若
- ④ 行住坐臥ぎょうじゅうざが

- 問10 次の四字熟語のうち、「蔵書が非常に多いさま」という意味を表す語句として最も適当なものを、①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 38。

- ① 晴耕雨読
- ② 眼光紙背
- ③ 韋編三絶いへんさんぜつ
- ④ 汗牛充棟

- 問11 次のうち、故事成語「遼東の豕りょうとう いのこ」の意味として最も適当なものを、①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 39。

- ① 世間並みのことを特別だと思い、自分一人で得意になること。
- ② 存在がまれで、きわめて貴重で珍しいものであること。
- ③ 両者の間に大きな差異はなく、たいしたものではないこと。
- ④ つまらないものの中にきわめて優れたものが交じっていること。

## 国語

解答番号	正解
1	4
2	1
3	3
4	4
5	2
6	3
7	1
8	4
9	1
10	4
11	2
12	2
13	3
14	2
15	4
16	1
17	3
18	4
19	3
20	1
21	3
22	2
23	4
24	2
25	1

解答番号	正解
26	3
27	4
28	1
29	3
30	1
31	2
32	4
33	3
34	2
35	2
36	2
37	3
38	4
39	1